

赤ちゃんを守ろう

妊娠中の女性が感染し、赤ちゃんに障害が出る恐れのある感染症といえは風疹が知られているが、サイトメガロウイルスやトキソプラズマにも注意しなければならない。いずれも誰もが感染する可能性のあるありふれた感染症で、日本産科婦人科学会などは、妊娠を希望する女性への啓発に努めている。徳島大学病院産科婦人科の加地剛講師に、妊娠中に気をつけるべき感染症とその予防法について聞いた。

◆風疹

妊娠初期の女性が感染すると、赤ちゃんに白内障や緑内障といった目の障害や先天性の心疾患、難聴などの障害が出る「先天性風疹症候群」になる恐れがある。

血液検査で抗体の有無を調べることで、抗体が不十分な場合、妊娠中でなければ、ワクチン接種によって予防できる。ワクチン接種後は2カ月間避妊する必要がある。妊娠中に抗体が不十分であることが分かった場合は、家族がワクチン接種を受けたり、人混み

妊娠中に気をつけるべき感染症



「妊娠を希望する女性は風疹の抗体検査を受けて、早めにワクチンを接種してほしい」と話す加地講師＝徳島大学病院

低体重で出生も 流産・死産の恐れ

を避けたりして予防する。

加地講師は「妊娠してから抗体検査では、妊娠後に感染したのか、妊娠前から十分な抗体を保有していたのかを判断しにくいことがあり、不安な気持ちで過ごすことになる。妊娠を希望する女性にはあらかじめ抗体検査を受け、抗体が不十分な場合はワクチンの接種をしておけば、妊娠中も安心して過ごせる」と話す。

健康な大人や子どもが感染しても、無症状か風邪のような症状が出る程度だが、妊娠中の女性が初めて感染すると、胎児が低体重で生まれたり、脳や聴力、視力に障害が出たりする場合がある。血液検査で抗体の有無を調べることで、ワクチンや治療薬などではなく、接触により感染するため、完全な予防は難しい。かつては妊婦の90%以上が抗体を持っていたといわれていたが、若い女性の抗体保有率が低くなり、妊娠中に初感染する危険が高まっている。

上の子の尿や唾液から

妊婦が感染することもあが分かって、薬の投与で尿や唾液との接触を胎児の重症化を防ぐこと避け、手洗いを励行するがでる。

こと、歯ブラシや食器の共有を避けること、妊娠肉やレアステーキ、生ハムの生行食はコンドームを使用することが予防に分な肉を食べないようにする。ガーデニングをするときや動物のふんを処理するときは手袋やマスクを付け、作業後にしっかりと手洗いをすることが重要だ。

◆トキソプラズマ

哺乳類や鳥類などに寄生する寄生虫で、妊娠中スクを付け、作業後にしっかりと手洗いをすることが重要だ。

加地講師は「いずれの感染症も、徳島県内では生肉を食べることの感染報告はほとんどないが、病気を防ぐことで感染を予防できる場合がある」と注意を呼び掛けている。

血液検査で抗体の有無が分かる。妊娠中の感染

風疹抗体検査 無料で

徳島県は、風疹ウィルスの抗体検査を0歳の無料検査で抗体15年3月末まで無料が不十分とされた人を実施している。対象は、県内の各市町は、妊婦を除く妊娠を村では風疹のワクチン希望する女性と、19接種に必要な費用の全64年4月2日から90額や半額、定額補助を年4月1日までに生ま

13年10月にスタート。客は「一部市部で風疹が流行すると、ワクチンが不足気味になること」に6780人（男性2856人、女性3933人）が受けた。この性風疹症候群の予防意識40%が、抗体がないか「識を高めた」として不十分という結果が出ている。